

岩槻協議会

会報

第27号

挨拶

岩槻協議会共同代表 宮澤孝雄



昨年四月の総会で共同代表に選任され、まもなく一年になります。この一年、協議会は全期参加型の業務別担当制を導入し、業務負担の平準化を目指していますが、持続可能な組織運営には未だ途半ばの状況です。安定した協議会運営には、皆様からのさらなるお力添えをお願い致します。

また、今年度の事業活動内容は主幹担当期の皆様からの、本紙への寄稿をご覧ください。そして、これから事業の企画、運営に関わって

いただきました、各期のスタッフの皆様にご感謝申し上げます。

人生百年時代と言われる日本の高齢社会では、様々なメディアで「老後」「終活」「相続」という言葉をよく目にします。しかし、自分や親の子供のことと頭では解っていても「その時がきたらどうにかなる」と高をくくっている。私もそのひとりです。身体や考える力が衰えてきた、高齢者の財産管理や生活基盤等々、制度のメニューがあつても、複雑すぎて考えることを先送りしてしまいます。

私の願いは「自分らしく暮らしたい」「家族に迷惑をかけない」「少しの遺産だけ近親者で円満に引継いでほしい」等といったってシンプルなのに、何の準備もせずに、この願いを叶えるのは困難そうで、「しっかりと準備せよ」と自らを戒めています。

一方、気の持ちようは、「節度ある人との付き合い」「自然体の健康生活」「背伸びしない暮らし」と無理せず、すべてはほどほどを旨に、暮らしたいと願っています。最後に、会員の皆様、ご家族の皆様の、ご健康とご多幸を祈念しております。

挨拶

岩槻協議会共同代表 依田 功



1 新しい組織・運営体制始動

この一年新しい組織・運営体制による岩協改革は順調に進められました。共同代表、総務、事業、会計、広報の各二名の担当者は、協力し合い各事業に献身的意欲的に取り組みその役割を果たしました。同時に役員負担を減らすため、仕事内容の合理化、簡素化を図りました。また、風通しの良い組織にするため、会長の議題に各期の活動を報告する場を設けました。こうした情報交換は魅力的で安定的な活動を進めるための参考になりました。さらにコロナ禍により中断していた役員懇親会を再開し、役員相互の親睦を深め、岩協運営

の円滑な潤滑油となりました。

2 生きがいとイベントの開催

「明るく、楽しく、元気に！」を目指した各事業は、満足感・充実感をもつて終えることができました。準備、運営等にご尽力された各期の皆さんに心から感謝いたします。

学習講演会の是澤弘明先生の深い学識に満ちたお話に啓発されて、来年度四期では岩槻人形博物館の見学会に取り組み予定です。

カントリーウエスタンの演奏会では、百十四名の方々が心のこもった演奏に聞き入りました。岩協会員の方以外に多くの方が参加され限定的ではありますが、地域に開かれた岩協の姿を示したといえます。ボウリング大会ではストライクが決まると拍手で競技者を称賛し、ハイタッチで共に喜び合いました。グラウンドゴルフ大会でも、ホールインワンをした人に「おめでとう！」と声をかけ合い温かい交流の輪ができました。

こうして、スポーツ大会は素晴らしい健康活動の場となり心も体もリフレッシュすることができました。

### 3 社会福祉活動への参加

岩協では、結成以来「秋の赤い羽根共同募金活動」に取り組んできました。今年度も二十二名の方に協力をしていただき、岩槻駅と東岩槻駅の駅頭で道行く人に「よろしくお願いします。」と募金協力の声を掛けました。岩協の取り組みに対して、「岩槻共同募金支会」より丁寧な令状が届きました。

\*なお各事業の活動報告は、他の紙面で詳しく述べられています。

最後になりますがこの一年間の岩協の活動を基盤にして、令和六年度はさらなる飛躍を期待いたします。

## 読みを深め合う朗読クラブ

四期 依田美智子

「朗読を楽しもう」を目標に月一回の活動も、十数年になります。これまで、「耳なし芳一」「地獄に

落ちた欲張りばあさま」「いのちのろうそく」「早太郎と人身御供」「くるみ割り人形」など、民話・物語を中心に四十数作品を読み深めてきました。その練習の成果を、岩協文化祭や四期の懇親会で発表することもできました。

また、ボランティア活動として、いくつかの介護施設で朗読会を行い、高齢者の方との触れ合いも楽しみました。

クラブの皆さんの声を紹介します。 ※ 朗読の好きな仲間が集まって努力しているのが楽しく、仲間から学ぶことが多い。

※ 豊かな雰囲気、真剣な取り組み、みんなの誠実さが好き。

※ 読むごとにみんなが上手になり、自分もその中で向上していると感じ楽しい。

※ 声に出して表現することによって物語が生き生きとし、物語の良さが分かる。

### 活動の流れは、

- ① まずラジオ体操で体ほぐし
- ② 口の体操。一音一音はつきりと滑舌にも注意を払って全員で読む。台本は「北原白秋の詩」

と歌舞伎役者二代目市川團十郎の創作による「外郎売」

### ③ 台本の一人読みとリレー読み

この時の読みの目当ては、「イメージを持つて」「会話は心情をつかんて」「句読点や間の取り方を考えて」「緩急・強弱を工夫して」「言葉をはつきり、聞き手を意識して」「朗読者が朗読を楽しんで」の6点です。

### ④ ミニ発表会

練習の振り返りとアドバイスを

⑤ こうした練習を通して、朗読好きな十二人の仲間は、生きがいを感じています。



## 皇居の通り抜け

七期 山田美沙子

テレビに、一般公開されている秋の皇居乾通りのニュースが流れた。八十歳に手が届く私は、一度は行つてみたいと憧れを持って眺めていた。すると、十一月三十日の花散策が皇居の紅葉となった。

思わぬ知らせに喜ぶ一方、入場には長時間並ぶのにトイレはあるのだろうか、などと心配もする。当日は快晴となった。暖かい日差しの中、九人のメンバーが東京駅丸の内に降り立った。皇居に向かう道路には宮内庁の職員が立つて入場口を案内している。それに従って歩いていくと、立ち止まるほどの混雑もなく、ぞろぞろと足を進めて坂下門近くの検問所に到着した。

持ち物検査では水筒を一口飲むよう指示され、次の検問所では金属探知機で身体検査をされたりしたが、皇居なので納得した。中に入ると皇宮警察官の警備に変わり、通路はロープで仕切られ、「立ち止まらないでお進みください」とスピーカーから注意が流れる。そんな中でも鮮やかな紅葉の前では皆ス

マホを出してパチパチと写真に収めた。途中で記念写真も撮ったりしている間に乾門に到着した。

身体はだいぶ疲れていたが、昼食後、平川門から東御苑を散策した。途中で敵の侵入を防ぐための石垣や分厚い重厚な門扉を眼にし、『どうする家康』の大河ドラマに話はそれる。それでも、皆当時の時代に思いを馳せているようだった。

帰りの電車では、皆、満足と安堵と疲労の色を濃くしている。私も最初で最後の貴重な経験を頂き心に深く刻んだのだった。



## 折々の俳句

八期 篠崎弘征

○人は皆幸せであれ初明り

以前は協議会のバス旅行に参加していたが、八期では毎年七福神めぐりが新年の行事になっている。これ迄、本庄、草加など、今年は古河へ。早春のハイキングを兼ねた計画で、いつまでも元気に歩けることが願いである。

○霜柱踏みて打球を捕へけり

冬は運動不足になりがちであるがグラウンドゴルフは冬も続けている。練習会場の近くの高校の校庭では、春の野球大会に向けての練習が始まり、球児達の元気な掛け声が飛びかっていた。

○野遊びや締めは母校の応援歌

三密を避けるため八期の全体集会を城址公園で開催したことがあった。この時は宴ではなかったが、八期の宴の終わりはいつも麦畑の歌に合わせた炭坑節の踊である。学生時代の野外活動や宴の締めは母校の応援歌だったことが思い出される。

○太陽の匂ひを纏ふ遠足子

春は若い人たちがばかりではな

く私たちも探梅や花見にと外出することが多くなってくる。

子ども達もサッカーや遠足と太陽の光を存分に浴び野山を駆け廻って帰ってくる。

○襟足の赤きスカーフ木の葉髪

八期GGクラブ立ち上げの一人Nさん。赤いスカーフを巻いて練習会に参加すると「素敵！誰からの贈り物」と女性陣に囲まれ顔を赤らめていた。書道に秀で酔えば楽しい人であった。その彼も今は亡き人である。



## 我が引越し生活

九期 榎木正直

私は、昭和十三年十月十七日満州国通化省通化县で生まれました。父は、満鉄の勤務で官舎生活で、あちこち転勤などがありました。昭和二十年三月に、応召を受け入隊することになり、私たちは満州での生活は難しくなり、内地に帰ることになりました。

丁度、私が学校(尋常小学校)へ入学する時となりましたので、日本に帰ることが一番大事だと、父の考えで、母の出身地に帰ることが安全と母の実家、島原半島にある村に帰りつきました。

三月七日に身体検査を受け、四月に土黒尋常小学校へ入学しました。学校では方言が分かりかね、繰り返し訊いたことを思い出します。八月九日、丁度、夏休みに入る頃、病院に行くため坂道を歩いていたら、学校の生徒が道路に飛び出してきました。なんだろうと思っていたら、雲仙岳の上でピカッと光ったといいながら口々に話していました。後で、聞いてみると、長崎に原爆が投下さ

れたとのことでした。

昭和二十二年十一月父が復員し父の実家に帰ることになりました。場所は、茨城県の霞ヶ浦の湖畔です。家業は農業・漁業が主です。茨城県で生活が始まると、言葉が通じないので散々困りました。

小学校と中学校に六年間在籍し長崎に行きました。高校は「県立島原高校」です。卒業して、進学のため上京し、この間トータル六年計十八年でした。東京・埼玉にて就職し同時に住まいも構え現在に至っております。

年齢が、七十歳を過ぎ……他に何かないかと、生きがい大学・シニア大学と思索している間に七十五歳となり、シニア大学に入學して、早や十年となりました。あと何年続けられるかは不明です。

## 鬼押出し・八ツ場ダム

### バス旅行

十期 熊崎晴人

新型コロナウイルスの影響で延び延びになつていましたが、十一月二日晴天夏日の中、史跡巡りクラブ日帰りバス旅行を十六名参加で実施しました。当日午前七時岩槻駅前より出発、高速道路を使用し群馬・長野県方面に向かいました。順調に軽井沢に着き、まずは白糸の滝で紅葉の中、癒しの空間でマイナスイオンを浴びました。

次の鬼押出しは一七八三年の浅間山噴火の際に流れ出た溶岩が固まつて作られた奇形な岩場景観を楽しむことができる浅間高原の名勝地です。山麓にある鎌原観音堂は日本のポンペイ遺跡とも呼ばれています。

昼食の「おきりこみ膳」で満腹になつた後、八ツ場ダムの見学です。完成まで六十年も要した経緯・歴史を説明してもらい、エレベーターでダム下に降りて、吐出口部のダム本体を見上げてコンクリートの壁に圧倒されました。

真つ盛りの紅葉も楽しめました。また、バス会社の協力で「愛郷ぐんま全国割」で、旅行代金は二割引き、買い物クーポン二千円を付与され、沢山のお土産を買ひ皆、満足されていました。バスの中では積もり積もつた話・雑談で盛り上がりました。

時には近県でのバス旅行も良いものと思ひました。



## 三世代ふれあいのジャガイモ

### と小玉スイカ栽培

十二期 妹尾 建持

大栄住宅自治会ふれあいの会でシニアグループに所属する私が子供会とコラボして春から夏にかけてジャガイモと小玉スイカ栽培に挑戦しました。

ジャガイモ栽培は今年で四年目小玉スイカは初めての挑戦です。ジャガイモは三月に種芋を植え、五月連休明けに芽欠きと追肥そして

土寄せを行いました。収穫は七月初めに三世代十数名が参加して行いました。栽培面積の大部分を小玉スイカに充て、ジャガイモは昨年より作付け面積を減らしましたが皆さんで分配できるだけの量が取れました。子供たちもジャガイモ掘りには喜んで参加し、大きなジャガイモを掘り当てた時には歓声を上げていました。小玉スイカは狭い作付け面積に三十本の苗を植えるため空中栽培としました。まだ寒い二月下旬に子供たちを含めて十数人の参加を得て竹藪から十五の棚を組むための竹を切り出し、連休明けの五月、富士山の形をした苗床を三十個作り三十本の苗を植え付けし、棚を作るための支柱を立てました。

六月には全員が集まりジャガイモ収穫と一諸にスイカの人工受粉を子供たちと行い、その後六十個位がピンポン玉位までに成長しました。しかし十数個がカラスやハクビシンに食べられてしまいました。

八月上旬子供会の親子とふれあいの会皆さんが集合して思った以上にずつしりと重く甘いスイカ約四十個を収穫することができました。

子供たちも自分たちの顔と大きさを比べながら楽しんでいました。皆さんもスイカの栽培と収穫は初めての経験で楽しかったと大喜びでした。自治会の中で普段子供たちと接触がない中このような形で触れ合うことができ今後も続けていきたいと思っています。



### 十七期二十三年度活動報告

十七期 柳澤 健一

私たち岩槻校十七期は男性八名女性八名の計十六名で構成されています。皆さん活発な方が多く、活動も盛りだくさんです。その中からいくつかを紹介します。

第一回例会では年間計画がたくさん出されました。そのあと長年ケン玉の研究をしている関口さんの指導で様々な実技指導してもらいみんなで練習しましたが、これが結構難しいものでしたが、童心に帰りました。

五月には、新緑の中、迎賓館を見学。事前に下見もして美味しい昼食ができる場所も探しました。当日は絶好の五月晴れで、広々とした洋風本館、和風の別館と見学に熱が入りました。

六月には「餃子つくりの会」会員の永田幸子さんを先生に、予行・本番とジャンボ餃子を作り試食、楽しい時間を過ごしました。

同じ六月には有志で「行田古代蓮見学会」を催行。東アジア一帯に広がるハスの文化圏も学習し、たった四日間の儂い花の命も知りま

した。

七月末には、大宮「そごう」の中華店で「暑気払い」、二十三年の夏は本当に猛暑でした。

九月には学習講演会「渋沢栄一と日本人形」に参加しました。十月には、日暮里の「朝倉彫塑館」を見学、お昼は谷中銀座の「鰻の山ぎし」で安くて美味しい重をいただきました。食べてるだけのようにみえますが、食べてます。



## 岩槻協議会事業

### 学習講演会

#### 「渋沢栄一と日米人形交流」

主幹 十二月

九月七日、本丸公民館視聴覚ホールに、九十名の校友が集いました。この中には、今回初めてお誘いのお声かけをした「卒業生」十四名が含まれます。



講師は澤博昭博士による「渋沢栄一と日米人形交流」と題する、ご講演がありました。是澤さんの研究は、主に三つの分野にわたります。

① 子供たちの文化史、子どもを愛でる日本固有の文化、玩具の歴史と文化をご研究。

② 雛人形と雛祭りの歴史と文化の研究。岩槻に、さいたま市立の人形博物館が開館いたしましたことは、ご承知の通りですが、その開設準備及び収蔵人形コレクションの選定などに、多大のご尽力をなし、現在も人形博物館のアドバイザーです。

③ 三つ目は、渋沢栄一研究。経済界では、つとに評価の高い渋沢ですが、世界平和を求め、国際文化交流を推奨し、切り開いた面に、焦点を当てたご研究。

氏のご講演は、岩協の企画としては三年越しのもの、ご承知の通りコロナ禍があつて、中止いたしました経緯がございます。待ちに待ったご講演を会員一同大いに楽しみにしていました。

氏の講演要旨は以下の通り。  
一九二〇年代の米国では、アジア系移民を排斥する機運が高まり、

日本国内ではこれに反発するかの如く、反米の風潮が強まりました。政治外交面では、かかる日米間の険悪な関係を融和する術が見つからぬなか、折しも米国宣教師ギョーリック氏がアメリカ人形を日本の子供たちに贈ることで民間の文化交流を模索しました。

日本側では渋沢栄一がこれに呼応する形で受け入れ態勢を整え、更には答礼として日本人形を制作し贈呈しました。この試みは大局を左右するような結果はもたらさなかつたものの、渋沢が余生をささげた日米人形交流は、民間の国際文化交流の先駆けとして評価することが出来るとのことでした。

### グラウンドゴルフ大会

主幹 八期

九月二十六日(火) 岩槻文化公園陸上競技場において恒例のグラウンドゴルフ大会が開催されました。当日は天候に恵まれました。



秋晴れの下五十三名で和氣藹々のプレーが展開されました。

この数年校友会の会員数が減少しておりグラウンドゴルフ大会参加者もそれに伴い減少してきております。  
入賞者は左記のとおりです。

		入賞者			
		男性		女性	
優勝	7期	新 関様	76(3)	8期	間々田様 83(3)
二位	9期	皆 川様	79(2)	7期	中 島様 88(2)
三位	10期	大 貫様	79(1)	7期	木 村様 88(0)
四位	10期	田 中様	86(0)	7期	今 井様 91(0)
五位	8期	安 部様	86(0)	10期	渡 邊様 91(0)

( )内はホールインワン数



### 赤い羽根共同募金活動に 参加して

主幹 事業担当

コロナ禍もあり、令和元年の参加以来、久しぶりに岩槻協議会の事業として赤い羽根募金活動に参加しました。

十月二日の岩槻駅頭の活動には、九名の、三日の東岩槻駅頭の活動には十三名の計二十二名の参加を得ることが出来ました。  
参加頂いた方々にお礼を申し上げます。

実際に駅頭で声掛けをして答えて頂けるケースは少ないのですが寄付金額は、岩槻駅で一萬三千九百八十一円、東岩槻駅で二萬八千五百五十六円の金額が集まったと社協の担当者から連絡を頂きました。

今年、二十二名の参加がありました。が、参加者が零の期もあつたことから、次年度以降の活動時には協議会の規約(第四条(事業)四・ボランティア活動の普及啓発)にも参加を促す条文がありますので、より多くの期からの参加を頂いて活動としていければと思います。

### 第三回ボウリング大会

主幹 十期

十月十九日に第三回のボウリング大会が春日部ターキーボールに於いて開催されました。

全参加者が、集合時間前より集まり準備に余念がありません。

主管十期の小舟会長の開会の言葉に続きラジオ体操、依田共同代表の始球式でプレイが開始されました。各レーンは拍手やハイタッチそして残念がる大声も聞こえ、和気あいあい、楽しそうに親睦を深めておりました。

上位入賞者は後記の通り男子一名女子二名と前回同様の結果となりました。

今回は、男子十四名、女子九名計二十三名の参加者で前回より十名の減少となり、参加者無しの期もありました。

会員の高齢化が進む中ではあります、岩槻協議会会員相互間の親睦交流を目的とした行事でもありますので、次回からはより多くの期からの参加を期待致しております。成績発表表彰式の後、元気に

次回再会を期して、皆さん元気に散会致しました。

成績は次の通り(敬称略)

優勝 勝 竹村進 (十二期)272  
準優勝 澄川春子(九期)257  
第三位 河内良子(十二期)253



### カントリーウエスタン コンサート

主幹 九期

岩槻協議会主催の演奏会が十一月二十一日(火) 14時00分から15時40分まで本丸公民館視聴覚ホールにて、事業主幹九期によ

り開催されました。

出演者は、平成二十一年にカントリーウエスタン好きな三名により発足し、現在は七名でライブハウスなどで演奏活動している「岩槻 The Wonders」の七名と友情出演して頂きました「オカリナ一輪草」の二グループです。

「岩槻 The Wonders」は、二ステージで計十八曲を披露して頂きました。ほとんどが英語の曲でしたが、曲のストーリー説明があり、中には私の想像していたストーリーと全く違った内容の詞もあり勉強になりました。またボーカルの甘く優しい素適な声に魅了されました。

更に今回の演奏は、施設の音響装置を使わず、音響担当スタッフの持ち込みアンプやスピーカーで切れのよい演奏を鑑賞することができました。

一ステージ後、さいたま市内を中心に、唱歌、演歌、ポップスなど幅広いジャンルでオカリナをソロ演奏活動されている友情出演の「オカリナ 一輪草」の演奏を披露されました。

今回は、皆さんご存じの五曲を

演奏され、オカリナの情緒ある音色に心が和みました。

来場者は、岩槻協議会会員だけでなく、二会員や演奏者の関係者など含め百十四名の多くの参加があり、途中退席する方も少なく大変盛り上がりました。



# 令和六年度 岩槻協議会事業予定

## 【健康活動】

① みんなで歌おう会

「うたごえ届け隊」と共演

心も体もリフレッシュ

主幹 四期

② グラウンドゴルフ大会

各期の交流と健康増進

主幹 八期

③ ボウリング大会

日頃の運動不足解消

主幹 十期

## 【地域活動】

① 赤い羽根共同募金活動

社会福祉協議会へ寄付

主幹 事業担当

② 城下町岩槻鷹狩り

行列参加

岩槻区観光経済室 協力

主幹 事業担当

③ 城下町岩槻健康

ウォーキング

岩槻区コミュニティ課 協力

主幹 事業担当



## 編集後記

会報二十七号をお送りします。コロナウイルス感染が徐々に下火になり皆さんが普通の生活が送れるようになって約一年、岩協は共同代表制に移行しました。

新体制になって最初の会報発行です。担当は十二期広報主担当を中心に各期編集委員の方々にご協力して頂き作成されました。ありがとうございます。

会報は活動の証として大切な資産です。各期の原稿を読むことで一年間の活動を振り返ったり反省したり色々な思いが沸いてくると思います。一字一句を大切に編集作業を行いました。

校友会の多くに皆さんに読んで頂けると嬉しい限りです。

折原